

北海道立水産高等学校実習船建造工事請負契約の締結に関する契約（案）

北海道（以下「発注者」という。）と（以下「受注者」という。）とは、北海道立水産高等学校実習船建造工事に係る請負契約の締結について、次の条項により契約を締結する。

請負代金額 金 円
（うち消費税及び地方消費税の額 金 円）

（請負契約の締結）

第1条 発注者と受注者は、頭書の工事について北海道議会において議決されたときは、別紙契約書案により当該工事の請負契約を締結するものとする。ただし、発注者は、北海道議会の議決までの間に、受注者が指名停止を受けた場合は、この契約を解除し、議決後においても別紙契約書案による契約を締結しないことができるものとする。この場合において、受注者は、契約の解除により生じる損害の賠償を請求することができない。

（権利譲渡の禁止）

第2条 受注者は、この契約により生ずる権利義務を他に譲渡してはならない。

（契約の解除）

第3条 発注者は、次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

- (1) 受注者が前条の規定に違反したとき。
- (2) 受注者が当該工事請負契約に関し、北海道議会において議決された旨発注者から通知を受けた日から7日以内に当該工事に係る請負契約を締結しないとき。
- (3) 受注者（受注者が共同企業体であるときは、その構成員のいずれかの者。以下この号において同じ。）が次のいずれかに該当するとき。
 - ア 役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役員又はその支店若しくは常時建設工事の請負契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員（以下この号において「暴力団員」という。）であると認められるとき。
 - イ 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この号において同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。
 - ウ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員の利用等をしたと認められるとき。
 - エ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与する等直接的又は積極的に暴力団の維持若しくは運営に協力し、又は関与していると認められるとき。
 - オ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。
 - カ 下請契約又は資材、原材料等の購入契約その他の契約に当たり、その相手方がアからオまでのいずれかに該当することを知らながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。
 - キ 受注者がアからオまでのいずれかに該当する者を下請契約又は資材、原材料等の購入契約その他の契約の相手方としていた場合（カに該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

第4条 発注者は、この契約に関して、次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。この場合において、受注者は、解除により生じた損害の賠償を請求することができない。

- (1) 受注者が排除措置命令（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下この条において「独占禁止法」という。）第49条に規定する排除措置命令をいう。以下この条において同じ。）を受けた場合において、当該排除措置命令について行政事件訴訟法（昭和37年法律第139号）第3条第2項に規定する処分の取消しの訴え（以下この条において「処分の取消しの訴え」という。）が提起されなかったとき。
- (2) 受注者が納付命令（独占禁止法第62条第1項に規定する課徴金の納付命令をいう。以下この条において同じ。）を受けた場合において、当該納付命令について処分の取消しの訴えが提起されなかったとき（当該納付命令が独占禁止法第63条第2項の規定により取り消されたときを含む。）。
- (3) 受注者が排除措置命令又は納付命令を受けた場合において、当該排除措置命令又は当該納付命令に係る処分の取消しの訴えが提起されたときであって当該処分の取消しの訴えを却下し、又は棄却する判決が確定したとき。

- (4) 受注者以外のもの又は受注者が構成事業者である事業者団体に対して行われた排除措置命令又は納付命令において受注者に独占禁止法に違反する行為の実行としての事業活動があったとされた場合において、これらの命令全てについて処分の取消しの訴えが提起されなかったとき（当該納付命令が独占禁止法第63条第2項の規定により取り消されたときを含む。）又はこれらの命令に係る処分の取消しの訴えが提起されたときであって当該処分の取消しの訴えを却下し、若しくは棄却する判決が確定したとき。
- (5) 排除措置命令又は納付命令（これらの命令が受注者に対して行われたときは処分の取消しの訴えが提起されなかった等の場合（これらの命令について処分の取消しの訴えが提起されなかった場合（当該納付命令が独占禁止法第63条第2項の規定により取り消された場合を含む。）又はこれらの命令に係る処分の取消しの訴えが提起された場合であって当該処分の取消しの訴えを却下し、若しくは棄却する判決が確定したときをいう。以下この号において同じ。）における受注者に対する命令とし、これらの命令が受注者以外のもの又は受注者が構成事業者である事業者団体に対して行われたときは処分の取消しの訴えが提起されなかった等の場合における各名宛人に対する命令とする。）により、受注者に独占禁止法に違反する行為があったとされる期間及び当該違反する行為の対象となった取引分野が示された場合において、この契約が、当該期間（これらの命令に係る事件について、公正取引委員会が受注者に対し納付命令を行い、処分の取消しの訴えが提起されなかった等の場合は、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反する行為の実行期間（独占禁止法第7条の2第1項に規定する実行期間をいう。）を除く。）に入札又は北海道財務規則（昭和45年北海道規則第30号）第165条第1項若しくは第165条の2の規定による見積書の徴取が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき（当該違反する行為が、この契約に係るものでないことが明らかであるときを除く。）。
- (6) 受注者（受注者が法人の場合にあっては、その役員又は使用人を含む。）について、独占禁止法第89条第1項、第90条若しくは第95条（独占禁止法第89条第1項又は第90条に規定する違反行為をした場合に限り。）に規定する刑又は刑法（明治40年法律第45号）第96条の6若しくは第198条に規定する刑が確定したとき。

（違約金）

第5条 受注者の責に帰すべき理由によりこの契約を解除した場合（第1条後段、第3条第3号又は前条前段の規定によりこの契約を解除した場合を除く。）において、受注者の納付した入札保証金のあるときは、これを発注者の帰属とし、入札保証金のないときは、別紙契約書案に記載された契約金額の100分の5に相当する額を違約金として発注者に納付しなければならない。

2 受注者は、北海道議会の議決を得られないために当該北海道立水産高等学校実習船建造工事請負契約を締結することができない場合において生ずる一切の損害の賠償を請求しないものとする。

（契約の効力）

第6条 この契約は、第1条の規定により当該工事の請負契約を締結し、又は北海道議会において当該工事の請負契約の締結に関し議決されないこととなるまでの間はその効力を有するものとする。

（補則）

第7条 この契約書に定めのない事項については、必要に応じ発注者と受注者とが協議して定めるものとする。

この契約を証するため本書を2通作成し、当事者記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

令和 年（ 年） 月 日

発注者 北海道
北海道教育委員会教育長 佐藤嘉大 印

受注者 住所
氏名 印